

令和4年度 東京都立白鷗高等学校・附属中学校経営計画

校長 宮田 明子

I 目指す学校 『伝統からグローバルな未来へ』

スクール・ミッション	「開拓精神」の伝統のもと、教科横断的な探究型学習を推進して生徒の幅広い知的好奇心に応えます。また、日本の伝統文化理解教育と国際理解教育を推進して自己のアイデンティティ確立とダイバーシティ（多様性）尊重の精神を養い、「競争」と「協働」ができる創造的なグローバル人材を育成します。
スクール・ポリシー	(1) グラデュエーション・ポリシー
	本校6年間の教育活動を通して、「主体的に課題を探究し解決する力」、「日本の伝統・文化を深く理解し発信する力」、「ダイバーシティ（多様性）を尊重し世界と「競争・協働」する力」を育み、広く世界で活躍することが出来る人材を育てます。
	(2) カリキュラム・ポリシー
	以下の視点に基づき、生徒の育成結果と照らし合わせて常に最適なカリキュラムの編成を目指します。 ア 日本の伝統文化が息づく立地の特色を活かし、地域における体験活動を積極的に組み込むとともに、日本の伝統文化理解教育を推進する学校設定教科・科目を設置します。 イ 日本及び諸外国の様々な分野の企業、大学、地域社会の人々と接点を持ちながら探究型学習を推進します。 ウ 国際的視野を広げるための特色あるカリキュラムを編成します。（第2外国語の設置、海外大学進学を可能にする選択教科・科目の設置） エ 生徒の興味・関心を最大限広げることが出来るよう、新しい社会に適応した学際分野に関する教科・科目を設置します。
	(3) アドミッション・ポリシー
	本校では、以下の意欲と意志をもち、実践を重ねてきた生徒を求めます。 ア 先の見えない今後の社会、世界を、力強く生き抜いていくために必要な知識・技能を積極的に身に付けようとする強い意欲と意志があり、それを実践してきた者。また、これからも実践できる者。 イ 身に付けた知識・技能を積極的に活用して課題を解決していこうとする意欲、意志をもつ者。 ウ 何事にも自らの意見を持って自立し、積極的に明確に自分の意見や考えを発信する勇気とコミュニケーション能力をもつ者。 エ 日本の伝統と文化を深く理解しようとする意欲と意志をもち、それを誇りをもって積極的に世界に発信し、将来国際社会で活躍しようとする意欲のある者。

上記のスクール・ミッションとそれに基づくスクール・ポリシーを掲げ、本校創立以来の高い知性と豊かな教養を身に付ける教育の成果を継承し発展させる。また、中高一貫教育校として6年間の系統的な教育のもと、生徒の個性・能力を伸張し自己実現を図るとともに、人格を陶冶し、先見性をもって時代や社会の変化に主体的に対応できる未来社会のリーダーを育成する。

II 中期的目標と方策

新型コロナウイルスの影響下にあつて、生徒及び教職員の生命の安全と健康を第一にしつつ、目指す学校像の実現に向けて繊細かつ大胆に教育活動を推進する。

- (1) 高校募集停止による高校2学級減と中学入学生1学級増が今後3年間継続することを見据えつつ、完全中高一貫化を踏まえた6年間の系統的な教育活動へ移行し、その充実を図る。それとともに、東校舎改築と西校舎への仮設校舎建築の影響を最小限に抑えることも大きな課題として取り組む。
- (2) 新学習指導要領の理念を踏まえ、①課題探究型学習の推進 ②日本の伝統・文化理解教育の充実 ③ダイバーシティ教育の充実を柱に先進的な取組を行い、Society5.0時代に向けた教育内容の充実も図りながら、国際社会に貢献する人材育成を推進する。
- (3) 生徒の適性に応じたきめ細かい学習指導を行い、思考力・判断力・表現力の向上を図る。また、大学入試改革と観点別評価の高校への導入を受けて、対面やオンラインに拘わらず授業改善を強力に推進する。
- (4) 3年間及び6年間を通じたキャリア教育の充実を図るとともに、中高一貫教育校として進路部主導の全校的な進路指導体制を構築し、生徒の進路実現に向けた指導を推進する。中長期的目標として難関国公立大学進学者15名、グローバル人材育成の観点から海外大学進学者10名以上を設定する。
- (5) 1年間指定延長となり、令和4年度が最終指定年度となった文部科学省事業の「WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業」共同実施校として、その最終報告を行うとともに、成果の検証と事業内容の継続を見据えた新規事業にも着手する。
- (6) 生徒が安心して学ぶことのできる教育環境を整備し、体罰を絶対許さないとの強い姿勢で臨むとともに、いじめや生命にかかわる事故の未然防止、早期発見、早期対応に学校全体で取り組む。
- (7) 地域の教育資源の活用、地域行事への生徒の積極的参加、学校運営連絡協議会等相互意見交換の機会の活用、施設開放事業の実施などを通して地域に信頼され支援される学校づくりに努める。
- (8) 学校の働き方改革に継続して取り組み、全職員がライフ・ワーク・バランスのもとに生き生きとやりがいを感じて働ける職場にするとともに、教職員の新型コロナウイルス感染防止に万全を期す。

III 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

ア 学習指導

- ① 生徒個々の学力を最大限に伸ばし、入学時の生徒の進路希望を叶えることの出来る授業の改善に全教職員で取り組む。その方策として、以下に掲げる取組を実施する。
 - ・年4回以上の教員相互の授業見学
 - ・他校指導教諭による模範授業の活用
 - ・予備校等主催の授業力向上セミナーの活用
 - ・生徒による授業評価の結果分析とその活用
 - ・授業改善、授業力向上に関する校内研修会の実施
 - ・CYODの活用による情報処理能力の育成
 - ・オンラインツールを活用した授業の実践とその効果検証
 - ・基礎学力定着のため自宅学習時間の確保とその把握(特に中学校段階)
 - ・英語検定、漢字検定、数学検定などの検定試験の活用
 - ・模擬試験、学力推移調査、定期考査の結果分析とそれに基づく授業改善、指導計画・内容の再検討
- ② 開発部を中心として全校体制で探究活動に取り組み、高校2年で個人で取り組む探究論文執筆を完遂させるとともに、生徒の主体的な学びを支援する。
- ③ 都主催事業「理数研究校」の指定校として、外部機関主催の講演会やコンクール等への参加を積極的に促すとともに、校内でも様々な企画を立案・実施し、生徒の理数分野への興味・関心を喚起する。
- ④ 都主催事業「Global Education Network 20」の指定校として、生徒の英語コミュニケーション力の一層の向上を図るとともに、STEAM教育に先進的に取り組む。

イ 進路指導

- ① 生徒の適正な職業観、勤労観の育成と6年間を通じたキャリア教育計画を策定し、学年間の進路指導における差を出さないよう、進路部を中心とした組織的・計画的な進路指導を行う。
- ② 大学入学試験の新傾向と新学習指導要領に基づく試験に適応した学力の育成に向けて、生徒・保護者へ適時適切に最新情報を提供する。
- ③ 長期休業中の講習、5学年の勉強合宿、平常時の講習・補習、及び個別添削等あらゆる機会を通じて大学受験に向けた生徒の学習を支援し意欲を喚起する。
- ④ 模擬試験の分析結果を生徒にフィードバックし、より高い目標を設定させるとともに、「チーム難関」、「チームメディカル」により難関国公立大や医学系にチャレンジする生徒を支援する。

ウ 生活指導・部活動

- ① 感染予防を含む安全で規律ある学校生活を、生徒自ら保持しようとする意識や態度を身に付けさせるとともに、規則や制服規程等について主体的に関わり自律的に遵守する姿勢を育成する。
- ② 全教職員で共通した生活指導に関する認識をもち、体罰やいじめの根絶を目指し、組織的できめの細かい指導ができるよう指導方法を工夫する。また生命尊重の教育を一層推進し、生徒の生命にかかわる事故を未然に防止する。
- ③ 体育祭、文化祭、合唱祭等の行事を含め、中高一貫教育校の特徴を生かした特別活動を実施し、豊かな人間性と人格を持ったリーダーを育成する。
- ④ 部活動加入を促進し生徒の学校への帰属意識を高め、仲間とともに目標に向かう協働意識を育む。

エ 国際教育・探究活動・地域連携

- ① 日本の伝統・文化の理解を通して世界の文化を知り、オーストラリア短期留学、フランス姉妹校での短期留学や、中学3年生のアメリカ研修旅行、次世代リーダー育成道場、東京体験スクール等での海外学校交流、留学生との交流を通して、広く海外に目を向け国際社会に貢献する姿勢と社会性を育成する。
- ② 「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」共同実施校の指定が1年延長されたことを受け、本年度を最終年度とする成果発表会を教育委員会及び事業推進校とともに挙げる。
- ③ 国際教育と探究型学習、及び主体的学びを融合させ、高校の修学旅行を生徒が自ら企画・立案した研修旅行とする取組を、今年度中学3年生から開始する。
- ④ 国際教育の充実に伴い増加が見込まれる海外大学進学希望者の学習ニーズに応え得る、教育課程の改善・編成に取り組む。
- ⑤ 開かれた学校づくりを推進し、地域や保護者から信頼される学校づくりを目指す。地域と連携した防災教育を実施するとともに、「総合的な探究の時間」における地域連携活動「上野・浅草学」の充実を図る。

オ 健康づくりの推進

- ① スクールカウンセラー及び特別支援教育コーディネーターを中心とした教育相談委員会による生徒状況の迅速な把握とその対処法について、全教職員で共有化を図り、特別支援教育に積極的に取り組む。
- ② 都主催事業「エンジョイ・スポーツ・プログラム」を活用して生徒の基礎体力の向上を図るとともに、家庭や地域と連携して感染予防を含む健康教育を推進し、健康、安全、環境、食育等に対する生徒の意識を高め、生徒自ら心と体の健康を保持・増進する態度を組織的に身に付けさせる。

カ 募集広報活動

- ① 中学校1学級増に向けて、募集対策を強化する。塾・予備校等での説明会や学校紹介行事にも積極的に参加して全教員が組織的に広報活動を行う体制をとる。また、状況によってはオンラインツールを活用して組織的な募集・広報活動を展開する。
- ② 文部科学省指定事業に基づくグローバル人材の育成や、探究活動等の本校独自の特色ある取組と本校の伝統的な教育活動の魅力を従来よりもさらに積極的に発信するとともに、本校の求める生徒像を明確に示して、本校で学ぶ意欲のある入学生を確保する。

キ 学校運営

- ① 完全中高一貫化初年度として中高一体化した組織的運営をめざし、情報を共有し、各分掌・学年が明確な目標を掲げ、検証を実施し、次年度に継承していく体制を確立する。
- ② 経営企画室との緊密な連携を図りながら、入学選抜業務の適正実施を目指す。
- ③ 予算編成・執行、施設管理、学事業務、窓口業務等、学校経営の根幹を支える経営企画室の業務の適正化と充実化を図る。
- ④ 東校舎改築とそれに先立つ仮設校舎建築に向けて校内体制の整備を行い最善の対応を図る。
- ⑤ ICT機器の活用による校務の効率化を図るとともに、業務縮減に関する教職員提案を積極的に取り上げ、ライフ・ワーク・バランスを推進する。
- ⑥ 服務規律（情報セキュリティ強化、個人情報の適正管理、パワハラ・セクハラ・体罰防止、安全配慮義務の遵守、厳正な会計処理、等）を徹底する。

(2) 重点事項 ※ 新型コロナウイルス感染症の状況により実施自体が厳しい項目もあるが、各時点での状況は流動的なため、平時を基準として数値等を含めて記載している。

項目	内容	取組達成時期
ア 学習指導	① 全教諭が年4回以上の授業見学を実施し、教科指導力の向上を図る。	2月
	② 予備校等主催の授業力向上セミナーに若手教員を参加させ、教科に還元する。	10月

ア 学習指導	③	生徒による授業評価および生徒実態調査を実施し、これらの結果分析を授業に反映させて授業改善に取り組むとともに、次年度の教科目標を策定する。	9月 3月
	④	授業改善、授業力向上等に関する校内研修会の実施	3月
	⑤	ICTやCYODの活用による授業の工夫とその効果検証の実施	3月
	⑥	中学校段階での自宅学習時間の確保とその把握	3月
	⑦	小テストや課題の量、頻度等についてその効果を検証しながら適切な負荷になるよう教科間での調整を行い、生徒の学力向上に資する指導を行う。	3月
	⑧	年間実施計画に基づく組織的な英語・漢字・数学検定の実施とその結果の指導への反映。	3月
	⑨	「理数研究校」として外部機関主催の講演会やコンクール等への参加、本校への大学教授の招聘等による講演会の実施等を積極的にを行い、理数教育への生徒の興味・関心の喚起と指導の充実を図る。	3月
	⑩	探究活動に全校体制で取り組むとともに、個人で取り組む探究論文を完成させ、生徒の主体的な学びを支援する。	3月
	⑪	「Global Education Network 20」指定校として英語コミュニケーション力の一層の充実を図る。	3月
	イ 進路指導	①	中学2年での田植え体験や、同学年での職場体験、職業講話等を実施し、生徒の適正な職業観や勤労観を育成する。
②		印刷物、保護者会、学習支援システム等、あらゆる媒体と機会を捉え、進路情報の発信を、主に進路部主導で行う。	3月
③		5教科による勉強合宿（5学年対象）を夏季休業中に実施し、学力伸長と大学受験に向けた意識啓発を図る。コロナ禍で中止の場合は、代替行事を実施する。中学、高校とともに、長期休業中の講習・補習の充実を図る。	8月
④		高校3年夏期講習60講座以上設置、延べ参加者数8,000人以上。	8月
⑤		模擬試験結果分析会、共通テスト検討会等を年4回以上実施し、全教職員が生徒の学力の現状を把握して教科指導に生かすとともに、生徒一人一人に即した指導内容の共有化を図る。	3月
⑥		チューターの活用とともに自習室の有効活用を図る。	3月
ウ 生活指導・ 部活動	① -1	・自主的・自律的な生徒会、委員会活動とその活性化を図る。 ・挨拶の励行と時間厳守等、基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。 ・年間皆勤者数、学年平均60名以上。	3月
	① -2	規則や制服規程等に関して主体的に関わり自律的に遵守する姿勢を育成する。	3月
	②	体罰実態調査を実施し、結果に対して迅速に対応するとともに、いじめの実態把握アンケートを年3回行い、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に資する。	2月
	③	コロナ禍における行事の実現に向けた工夫と実施を通して、困難に負けずに行事を成し遂げる強さを育成し、人間関係の構築とリーダーの育成を図る。	3月
	④	部活動への加入率を上げ、その活性化を図るとともに、中学・高校とともに、都大会相当以上の大会に3団体以上の出場を目指す。	3月
	⑤	仮設校舎建築工事開始に伴う部活動の外部施設利用を円滑に進める。	3月
エ 国際教育 探究活動 地域連携	① -1	オーストラリア短期留学や、中学3年生のアメリカ研修旅行、フランス姉妹校との短期留学等を改善実施し、海外交流事業の活性化を図る。	3月
	① -2	次世代リーダー育成道場への参加を積極的に促し、留学の推進を図る。最終合格者数を令和3年度と同じく2桁台とすることを目指す。	3月
	②	「WWLコンソーシアム構築支援事業」の最終報告会を11月に実施する。	11月
	③	「生徒が作る研修旅行」の取組を、中学3年生の探究活動の一環として開始する。	3月
	④	海外大学進学を目指す生徒が選択できる自由選択科目を設置する。	3月
⑤	日本の伝統文化理解教育を地域研究に発展させて、「上野・浅草学」の充実を図るとともに、防災教育で地域との連携を強化・充実させる。	3月	
オ 健康づくりの推進	①	生徒の新型コロナウイルス感染防止の徹底を図るとともに、生徒自らの感染予防の意識醸成を図る。	2月

オ 健康づくりの推進	②	スクールカウンセラー及び特別支援教育コーディネーターを中心に、教育相談委員会を通じた生徒状況の把握とその対処法を全教職員で共有し、特別支援教育に積極的に取り組む。	3月
	③	東京都の「エンジョイ・スポーツ・プログラム」事業の指定を受け、スポーツを楽しみながら生徒の基礎体力の向上を図ることを目指すとともに、健康、安全、環境、食育等に対する生徒の意識向上に組織的に取り組む。	3月
カ 募集広報活動	①	塾・予備校等の説明会に参加するとともに、オンラインツールを活用した募集・広報活動も積極的に展開する。	1月
	②	海外帰国・在京外国人枠、特別枠、一般枠、それぞれの募集枠で本校が求める生徒像を明確にして広報活動を実施する。	3月
	③	学校案内（スクールガイド）を全面刷新し、完全中高一貫化した新しい白鷗を全面的に広報する。	3月
	④	ホームページを東京都の仕様に刷新するとともに、150回以上の更新を行って広報活動に最大限活用する。また、英語・第二外国語の授業と連携して、海外に向けたホームページの作成も行う。	3月
キ 学校運営	①	中高の情報共有・情報交換の促進と統一した指導体制を構築する。分掌及び学年、教科での年間目標と年度末の検証を実施する。	3月
	②	経営企画室との緊密な連携を図り、入学選抜業務の適正実施を目指す。	3月
	③	予算編成・執行、施設管理、学事業務、窓口業務等の適正実施をさらに推進する。	3月
	④	東校舎改築とそれに先立つ仮設校舎建築に向けて校内体制を整備し、発生する諸課題に迅速に対応して最善の対応をとる。	3月
	⑤	ICT機器の活用による校務効率化と業務縮減に取り組み、ライフ・ワーク・バランスを推進する。	3月
	⑥	全教職員が公務員であることの自覚を持ち、服務規律を徹底する。	3月

(3) 本年度の数値目標

項目	目標	対象・内訳	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度目標
①	自宅学習時間	中学生	—	—	1時間35分
		高校生	—	—	2時間40分
②	進路決定合格者数(現役)	国公立大 難関私立大(早・慶・上・理) GMARCH	国公立大 63名 難関私大 108名 GMARCH 170名	国公立大 56名 難関私大 81名 GMARCH 179名	国公立大 70名 難関私大 95名 GMARCH 170名
		難関国公立大学合格者	5名	8名	10名
③	夏期講習参加者	中学生	—	延べ 2,991名	延べ 4,000名
		高校生	—	延べ 8,758名	延べ 8,000名
④	皆勤者数	中学・高校学年平均	平均70名	平均65名	平均60名
⑤	説明会等参加者	小学生とその保護者	—	対面1,018組 オンライン2,094件	6,500名
⑥	一般枠倍率	中学校	5.80倍	5.27倍	6.0倍
⑦	英語力向上	中学校	英検準2級以上 92.8%	英検準2級以上 89.0%	英検準2級以上 90.0%
		高校	CEFR A2以上 高1 99.5% 高2 99.5%	CEFR A2以上 高1 99.6% 高2 99.1%	CEFR A2以上 高1 99.0% 高2 99.0%